防災対策調査特別委員会　会議記録

1	期　　日	令和５年６月26日（月） 午前９時30分　開会 午前９時50分　閉会
2	場　　所	第１委員会室
3	出席委員	委員長　上田　伴子 副委員長　太田　智博 委　　員　浅田　　徹、木谷　敏勝、 田中藤一郎、松井　正志、 米田　達也
4	欠席委員	なし
5	説　明　員	別紙のとおり
6	傍聴議員	なし
7	事務局職員	総務係長 伊藤八千代
8	会議に付した事件	別紙のとおり

防災対策調査特別委員長　　上田　伴子

防災対策調査特別委員会　次第

日　時：2023年6月26日（月）９：30～

場　所：第１委員会室

１　開　　会

２　委員長あいさつ

３　報告事項

⑴　出石町片間地内における土砂災害と避難指示の発令経緯について

４　そ の 他

５　閉　　会

※（委員会終了後）管内行政視察　日高防災公園まゆの里

防災対策調査特別委員会名簿

【委　　員】　　＝6/26防災対策調査特別委員会出席不要

職　　名	氏　　名
委　員　長	上　田　伴　子
副 委 員 長	太　田　智　博
委　　員	浅　田　　徹
委　　員	木　谷　敏　勝
委　　員	田　中　藤一郎
委　　員	松　井　正　志
委　　員	米　田　達　也

７名

【当　　局】

職　　名	氏　名	職　　名	氏　名
危機管理部長	山本　尚敏	危機管理課長	畑中　聖史
		危機管理課参事	木下　喜晴
健康福祉部長	原田　政彦	健康増進課長	宮本　和幸
		健康増進課参事兼保健センター長	村尾　恵美
コウノトリ共生部長	坂本　成彦	農林水産課長	浪華　　誠
		農林水産課参事	村田　一紀
		農林水産課参事	山本　隆之
		農林水産課参事	福井　孝道
都市整備部長		建設課参事	北村　省二
		建設課参事	村田　光弘
城崎振興局長	植田　教夫	地域振興課長	藤原　孝行
竹野振興局長	石田　敦史	地域振興課長	山根　哲也
日高振興局長	柳沢　和男	地域振興課長	池内　章彦
出石振興局長	宮﨑　雅巳	地域振興課長	三宅　　徹
但東振興局長	大岸　和義	地域振興課長	道下　　一
上下水道部長	川端　啓介	下水道課長	榎本　啓一
消防長	井﨑　博之	本部参事	中地　　修
		本部参事	向井　雅人

３名

【議会事務局】

職　　名	氏　名
総務係長	伊藤　八千代

午前９時３０分開会

○委員長（上田　伴子）　お聞きのように、田中委員がちょっと遅れて来られますけども、よろしくお願いします。

それと今回、初めに、片間の件について、危機管理課のほうよりご説明をお願いしたいと依頼をしております。

昨今、やっぱりこういう事案はいろいろ出てくると思いますので、私たち防災のほうでもしっかりと現状把握と、それから反省点、今後の対応などをお聞きしながらしていきたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

またこの後、委員の皆さんには、また危機管理部のほうより、まゆの里のほうの防災公園のほうに移動してもらって、またそちらの視察もしていただきますので、ちょっとタイトな感じになりますけども、どうかよろしくお願いいたします。

では、始めます。

それでは、３番の報告事項に入ります。

現在、常任委員会、特別委員会の会議録を市議会ホームページで公開しています。つきましては、委員の皆さん、当局の皆さんにおかれましては、次の２つの点にご留意願います。

１つ目は、数字や年月日などについて、言い間違いのないように正確にお願いします。

２つ目は、個人情報や未確定事項などについて、不適切な発言がないように慎重を期してください。

それでは、危機管理部危機管理課、お願いいたします。

畑中課長。

○危機管理課長（畑中　聖史）　それでは、議会事務局を通じて配付といいますか、配信させていただいております２ページ物の資料の１ページをご覧ください。「出石町片間地内における土砂災害と避難指示の発令経緯について」というタイトルのものでございます。

５月７日日曜日からの雨に伴いまして、８日未明に出石町片間地内の民家裏山で山腹崩壊が発生しております。状況を確認して、危機管理課による避難指示の発令は５月１１日の１６時３０分となりました。この経緯についてご説明をいたします。

まず、５月８日の午前１時頃のことですけれども、当該世帯の住民の話では、３度にわたり裏山の斜面が崩壊したということでございました。土石が家屋に当たり、窓ガラスと壁が損傷したということでした。

この内容について、同日の１時５０分に出石振興局のほうへ当該世帯住民が電話をされて報告をされました。これに対して出石振興局は、朝になってから現場を確認するということを約束して、安全確保をしてくださいねということで電話を切っております。

明るくなって９時頃ということですけれども、出石振興局と農林水産課のほうで現場へ向かっております。確認しましたところ、幅約８メートル、高さ６メートルの崩落を確認しております。再度ですけれども、土砂災害、土砂崩れの発生、まだ可能性がありますので、十分気をつけてくださいねということを依頼して帰っております。この際には、県の農林水産振興事務所も駆けつけてくれておりまして、今後の対応策について相談もしております。

その日の夕方５時の時点で、災害対応時に被害情報を庁内共有する被害報告シートと、エクセルのシートなんですけれども、共有フォルダーに置いておるものに対して、農林水産課のほうが被害の状況を入力しております。この前段で朝、当日の８日の９時、１０時頃に、いろんな課から、ちょっと被害があって現場に行くというような話は聞いておったんですけれども、人家被害があるというようなことがその場ではなかったものですから、ずっとそういった被害がないというふうに思い込んでたところが、危機管理課としてはございました。

５月１１日、日がたっておりますけれども、県の災害対策課から、被害について危機管理部危機管理課のほうに連絡がありました。内容としましては、住家被害があるはずだということを、先ほど現場に来てくれました県の農林水産振興事務所の情報提供では、そういったことがあるはずだけどもという

ようなことでございました。これを受けまして、危機管理課のほうで農林水産課に確認しましたところ、今言いましたような被害が発生していたというようなことでございました。

同じ１１日の午後１時ぐらいですけれども、市長が出張中でございましたので、副市長と避難指示の発令について協議をいたしました。市長にもメールで、こういった内容で避難指示を出すというようなメールを送っております。当該世帯の住民に対しても、出石振興局を通じまして避難指示を発令する旨を伝えております。いわゆる県のフェニックス防災システムというものに入力するということで、テレビ等で報道されとるわけなんですけども、１６時３０分の時点で避難指示を発令ということになりました。

その下に丸２つつけておりますけれども、避難指示の発令が遅れた理由としましては、被害を確認した職員には、被害報告シートに入力することを求めておりますが、その内容を口頭で報告することは必須とはしておりませんでしたものですから、この内容について確認すべき危機管理課が確認していなかったということでございます。

今後の対応につきましては、被害報告シートに入力した際は必ず報告を求めることとしております。また、被害の状況が時系列で確認できるような様式も検討していきたいと思っております。さらに、振興局内での被害については、振興局で現場で確認した場合、振興局できちんと対応できるよう、調整も図っていきたいというふうに考えております。

なお、ここには記載しておりませんけれども、ＤＸのほうとの協議等にもよりまして、入力漏れがないというようなこと、あるいは入力したら入力した旨が分かるというような内容のそういったシートの作成についても、今後進めていきたいなというふうに考えております。

説明は以上でございます。

○委員長（上田　伴子）　説明は終わりました。

質問等ございましたらお願いします。ありませんか。

○委員（浅田　　徹）　せっかくですから。

○委員長（上田　伴子）　浅田委員。

○委員（浅田　　徹）　何点かよろしいですか。

まず１つは、私も現場見てきました。それとハザードマップも見ました。全く、これ一般質問でもしたんですけども、急傾斜の事業、連帯してますから、ハザードマップもない。崖なんだけども、全然そういう対応もできてない。こういうのは、市内でもういろんなところに出てくるというふうに思っていますんで。やっぱりこういう言い方は悪いですけども、土質とか、それから上流部に危険渓流があるとか、なかなかそういうのは、指定外のところについてもやはり周知、それからどのぐらい降ったら危ないのかなっていうのは、既にもう３００ミリいうのが大きな１つの目安になっとると思うんですけども、やっぱりそういうきっちりとした対応ができるようなことを考えていかないと、これはやっぱり個人判断になりますので、特に急傾斜のかかるようなとこについては、やっぱり各振興局が押さえてると思います。その辺の把握も踏まえて今後、やっぱり命に係ることだから対策を講ずべきっていうのが１つあります。

それともう一つは、この現場状況で現場確認してますけども、やはりこういう土砂崩れ、崖地の円弧滑り等、ここも書いてありますけども、３回崩れたって本人が言っておられます。

僕も現場まで行けませんですから遠目で見たら、やっぱり聞きましたら、昔ずっと畑できれいにならしておられるいうことは、かなり上の土はルーズな状態になっとると。やはり現場に行った職員、行っとるんでしょうけども、さらに上の分でクラックがいってるとか、その場合は、必ず現場地区の区長さんとか自主防のほうにお願いして、ブルーシートで、次の上の段のクラックに水が浸透して、さらに大きな崖崩れが発生しないような現場指示ですね。現場確認して、そういう緊急対策、本当の応急対策ですけども、やっぱりこの辺ができとったかどうかっていうのが２点目です。

それと、これからこういうシーズンを迎えるわけ

ですけども、特にハザードマップずっと見てましたら、それと時系列で見てたら、レッドゾーンに至っても、きっちりとした、その地区で周知徹底と併せて簡易雨量計のやっぱり公的に配布をして、その辺のとこを伝えておかないと、ただハザードマップを配って、私の家はこのレッドの中にあるんだなっていうとこまでは分かるにしても、どういう状態で、どの時点で、あれ雨量に応じて１４０ミリで区切るとか全部それあるわけですね、データが。その辺も教えてあげないと、３００で崩れる、１４０でも滑るとこもあるわけですから、やっぱりこれ行政としては、逃げる逃げないの判断は個人なんですけども、きっちりと正しい情報と対応をね、今のこういう崖地と、特にレッドゾーン、ハザードマップ配布した地区にはやっぱりやっておいてほしいなと、それを思いますけども、ちょっといろいろと言いましたけども、いかがでしょうか。

○委員長（上田　伴子）　それでは、お願いします。どうぞ。

○危機管理課長（畑中　聖史）　まず、周知のあたりの件なんですけれども、やはり我々ができるのは、防災マップで書かれている内容を出前講座などでお話をするというようなこと。それからそうはいいながらも、やはり裏山、自分が住んでおられるところですので、状況を見ながらっていうようなことと、あと、今おっしゃいましたけども、１００ミリぐらいで崩れる山もあれば、２００ミリ、３００ミリと持ちこたえるというような山もございましょうし、その辺は、１００以上降ってくると危険だというようなことは考えてくださいねっていうことは、日頃から出前講座とかでは言ってるんですけども、呼んでいただいてこそ初めて出前講座ということになりますので、その辺がなかなかできていないようなところがあるのかなというふうには思っております。ですので、出水期前ですとか、その都度その都度、広報等に記事を載せてもらったりですとか、防災行政無線で市長から直接放送していただいたりとかしておりますので、そういったときに、いわゆるイエローあるいはレッドゾーンに指定されていなくても、そういった危険性もあるというようなところは周知していきたいなというふうには思っております。

それから、ここの現場ですけれども、今はもう既に工事が入っているというふうに、農林水産課からは聞いておりますが、この雨の翌日、翌々日ぐらいからはもうブルーシートを掛けて、それ以上広がらないような対策はしてもらっておりますので、それのおかげで、何度か雨は降っておりますけれども、何とか持ちこたえてくれたのかなというふうに思っております。

簡易雨量計の配布というようなことですけども、なかなか全てのところにというのは難しいことだと思いますので、これでも自分たちでつくれるというようなところを、いろいろ周知していきたいなというふうに考えております。

ちょっと答えられっていうか、できてないところはあったかもしれませんけども、取りあえず、以上でございます。

○委員長（上田　伴子）　いかがですか。

○委員（浅田　　徹）　やっぱり現場に行かす職員、特にここ危機管理課ではそんな動かれへんし、現場も分からないし、事務的にデータを収集して、いろんな事務的な手続を進めるというようなそれはいいと思うんですけども、いかに効率よく現場を、私も全然２日目ぐらいに現場見たんですけど、まだオーバーハングしたままの状態でね、上が。さらにあれ次降ったら、またどんとその上が落ちてくると。だから、そういうものをやっぱり瞬時判断できる、これは技術力じゃ駄目なんですよ。現場判断、その瞬時判断できて、もう取りあえずはこれ応急対策しとくっていう、その場で指示をして帰れるぐらいな、そういう技術職員、少ない中でも、やっぱりそういうことも含めて、講習、研修、やはりそれは必要かなと思う。ぜひこれ何か機会あるごとに、そういうことができないのかなというのが１つと、もう一つは、特に水についてはタイムラインってかなり今進んで、地区ごとにそういう避難のタイミングのタイムラインというようなことで、本川の水位とか内水、

地元でやってくださいねっていうふうなことがあるわけですけども、今、課長が言われたように土砂崩れ、これについてのなかなかタイムラインっていうのは非常に難しい、言われたとおりに。ただ、県が出してるのは、あくまでもレッドゾーンはやっぱり雨量に対して３００ミリでは全部ずれるわけですけども、そういう状況があるのであれば、やっぱりある程度、もう一度そのハザードマップ、特に山ですね。限界集落とか、本当に孤立されるような、やっぱり家屋で残される。見ましても、全くそれに対する補助制度はあっても、１件も申込みが、つまり、擁壁を造ったりとか移転をするとか、もう全くないわけですね。ですから、それはやっぱり地域ぐるみっていう形になる。誰が誰をどこへっていうのはあるわけですけども、それも併せて、いかにやっぱり危険な場所であるとか、そういう土砂災に対しての言わばタイムライン的なものを、もう一度何か小学校区辺りぐらいでやっぱり周知する必要はあるのかなと。我々の地域の山沿いの方は全く認識がありませんのでね、図面が配られたいう程度の。一遍、その辺の考え方、周知の仕方について今後進めていただきたいと思うんだけども、どうでしょうか。

○委員長（上田　伴子）　いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○危機管理課長（畑中　聖史）　１点目の現場に、我々、いわゆる事務屋ですので、ちょっと分からないところ、たくさんありますけれども、いわゆる技術員なんかが現場に行ってというようなところで、今回も県の農林水産振興事務所にも来てもらってというようなところは、そのまま放っといて大丈夫なのかとか、応急対策でこういうことができるのじゃないかっていうようなところの助言もいただきたいというようなこともあって、来てもらったんだと思っております。そういうようなことで、本当は日頃から事前点検みたいなんができればいいんでしょうけども、なかなかそういうことが、行けない以上、何かあったときには、もうすぐにそういった知識を持ってる人間が見て回るというような体制は、建設課なり農林水産課なりのほうにはお願いしていきたいなというふうに思っております。

それから、タイムラインの話が出ましたけれども、まさにおっしゃるとおりで、土砂災害の関係でタイムラインなんていうのはなかなかっていいますか、できないだろうなと思っております。ある意味、レッドゾーン、イエローゾーンであれば、こういったことになりますよっていうことは言えるんですけれども、そもそもそういった何ミリ降ったらっていうシミュレーションにも入ってこないようなところがあるっていうのは事実ですので、そういった具体的に誰々さんのとこというような話はできませんけれども、実際こういうこともあったというようなところで、言われるように、小学校区なりでそういった周知啓発は進めていきたいなと思っております。

今、県もそうなんですけれども、危機管理課でもいわゆるマイ避難カードの作成というようなところを、力を入れております。これは結局、自分の住んでるところがどういう危険性があるかっていうところを把握してもらうもんだというふうに思っておりますので、浸水の色もついてなければ、土砂災害の色もついてないけれども、裏に山があるっていうような方には、そういったこともあるんだっていうのは、機会を得てやっていきたいなというふうには考えております。以上です。

○委員長（上田　伴子）　ほかありませんか。

木谷委員。

○委員（木谷　敏勝）　１点聞かせてほしいんだけど、ＮＨＫのテロップで、翌日まで豊岡市に避難指示発令、市民の人からも一体どこのことだと。その後に、特定の地域で特定の家だったというのが分かって、豊岡市の危機管理いうのはこういうことかみたいなあれがあったんで、そこら辺の対応はどう考えられておりますか。要するにテロップまで流してね、全域ならいいにしても、そこら辺の判断の仕方いうのはどこでされとったんかなと思って。

○委員長（上田　伴子）　畑中課長。

○危機管理課長（畑中　聖史）　先ほどちょっと申し上げましたフェニックス防災システムというもの

に入力をして、避難指示なりいうものを入れると、もう自動的に、全てじゃないかもしれませんけれども、報道機関のほうに豊岡市避難指示発令っていうのが流れてしまうと。その内容については、もうそれ報道機関によっては右から左でそのまま入ってきた情報が画面に出てしまうような設定のところもあるように聞いておりますし、内容を確認した上で流されたりするようなことがあるっていうのも聞いておりまして、今回、結果だけ、細かい報告をするまでに、豊岡市避難指示っていうとこだけが拾われて流れてしまったというところですので、ちょっと我々ではコントロールできなかったというところが正直あります。その後、実は報道対応に追われておりまして、具体的に例えば防災行政無線などを使って、どこどこの地域でもう既に危険ですよっていうことは、ご本人にも周知済みみたいなことができれば、混乱もなかったのかなというふうには思うんですけれども、そういった対応に追われてまして、次の策のところまでちょっと行けなかったというのが事実でございます。

そもそも、こんなにいい天気で晴れてるのに避難指示っていうところで皆さん驚かれたり、誤報ではないかっていうようなことがあったんだろうと思いますので、そもそもそのタイミングを逸していたというところが問題だというふうに思っておりますので、今後は、やっぱり危機感が高まっているところに、そういうものがきっちりタイムリーに流れるように注意はしていきたいと思っております。

○委員（木谷　敏勝）　市民の方はもう危機管理ということに非常にあれになって、神経質になっておられるんで、これからもしっかり取り組んでいってください。

○委員長（上田　伴子）　畑中課長。

○危機管理課長（畑中　聖史）　もう精いっぱいやらせていただくとしか言いようがございませんので、ひとつよろしくお願いいたします。

○委員長（上田　伴子）　ほかはないですか。

私から、ちょっと時間ないですけど、１点だけ。この一番最後のほうに書いてあります、これからの今後の対応で、被害報告シートで入力した際は必ず報告を求めるというのは、これは反省としては、口頭での報告がされてなかったっていうのがやっぱり一番大きな原因だと、避難指示の発令が遅れた原因は、それが一番大きい原因だということでなんでしょうか。

畑中課長。

○危機管理課長（畑中　聖史）　今回の件につきましては、やはりちゃんと聞いておれば、すぐに対応しておった案件だと思いますので、そこが一番まずかったと思っております。ですので、そういった口頭での報告を求めるに加えて、ＤＸをできるだけ活用した上で、入力があれば、すぐにポップアップで出てくるとか、そういったようなところも検討していきたいというふうに考えております。以上です。

○委員長（上田　伴子）　ありがとうございます。

ほかはないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田　伴子）　それでは、以上で報告事項は終わります。

その他です。

委員の皆さんから何かありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田　伴子）　ないですか。

それでは、以上をもちまして本日の防災対策調査特別委員会を終了いたします。ご苦労さまでした。

午前９時５０分閉会